

申命記 43回
「諸々の規定（6）～（11）」
申 22：1～12

1. はじめに

(1) 第2の説教：契約に基づく義務

③律法の解説と日常生活への適用（12：1～26：15）

(2) 「律法の解説と日常生活への適用」は、律法の各論的解説とその適用である。

①この箇所を12項目に分割して説明している。

②第11の項目：諸々の規定（21：1～25：19）

③諸々の規定の中には34の細かい項目がある。

④今回は（6）～（11）を取り上げる。

*これらの規定が与えられている理由を考えると、霊的に成長する。

2. メッセージのアウトライン

(6) 隣人の家畜（22：1～4）

(7) 服装倒錯（22：5）

(8) 鳥の巣（22：6～7）

(9) 屋上の手すり（22：8）

(10) 二種類の物の区別（22：9～11）

(11) 衣の房（22：12）

3. 結論：6つの規定の新約的適用

諸々の規定の中の（6）～（11）について学ぶ。

VI. 隣人の家畜（22：1～4）

1. 1節

Deu 22:1 あなたの同族の者の牛または羊が迷っているのを見て、見ぬふりをしてはならない。あなたの同族の者のところに、それを必ず連れ戻さなければならない。

(1) この規定の土台になっているのは、隣人愛の教えである。

①レビ 19：18

Lev 19:18 あなたは復讐してはならない。あなたの民の人々に恨みを抱いてはならない。あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。わたしは【主】である。

②マタ 7：12

Mat 7:12 ですから、人からしてもらいたいことは何でも、あなたがたも同じように人にしなさい。これが律法と預言者です。

(2) 隣人の牛や羊が迷っているのを見た場合の規定

- ①強調点は、隣人の家畜を盗んではならないということではない。
- ②強調点は、迷っている家畜を無視してはならないということである。
*時間と労力がかかるので、無視したくなるものである。
- ③迷っている家畜を隣人のところに連れ戻さなければならない。
*彼らは、誰の家畜であるか互いに熟知していた。

2. 2節

Deu 22:2 もしその同族の者が近くの人ではなく、あなたがその人を知らないなら、それを自分の家に連れて来て、同族の者が捜しに来るまであなたのところに置き、それから彼に返しなさい。

(1) 迷った家畜の所有者が遠くの人で、誰だか分からない場合の規定

- ①その家畜を自分の家に連れて来る。
- ②所有者が探しに来るまで、自分のところに置き、それから、所有者に返す。

3. 3～4節

Deu 22:3 彼のろばについても同じようにしなければならない。彼の衣についても同じようにしなければならない。すべてあなたの同族の者がなくした物をあなたが見つけたなら、同じようにしなければならない。見ぬふりをしていることはできない。

Deu 22:4 あなたの同族の者のろば、または牛が道で倒れているのを見て、見ぬふりをしてはならない。必ず、彼と一緒にそれを起こしてやらなければならない。

(1) 同じ原則が、ろばや衣にも、適用される。

- ①隣人がなくした物を見つけたなら、見ぬふりをしてはならない。

(2) ろばや牛が道で倒れている場合も、同じ原則が適用される。

- ①家畜が穴に落ちて苦しんでいるのを見た場合の規定
- ②所有者と一緒に、それを起こしてやる必要がある。
- ③所有者が敵の場合でも、助けなければならない。
- ④出 23 : 5

Exo 23:5 あなたを憎んでいる者のろばが、重い荷の下敷きになっているのを見た場合、それを見過ごしにせず、必ず彼と一緒に起こしてやらなければならない。

VII. 服装倒錯 (22 : 5)

1. 5節

Deu 22:5 女は男の衣装を身に着けてはならない。また男は女の衣服を着てはならない。このようなことをする者はみな、あなたの神、【主】が忌み嫌われる。

- (1) 異性の衣装を身につけることは禁止された。
 - ①男女の性別の違いが曖昧になる恐れがある。
 - ②同性愛の推進につながる危険性がある。
 - ③偶像礼拝の習慣に染まる危険性がある。
 - ④男女の性差は、創造の秩序の基本的部分である（創1:27）。

Gen 1:27 神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。

(2) 【主】が忌み嫌われる。

- ①これは、同性愛に対する神の見解である。
- ②レビ18:22

Lev 18:22 あなたは、女と寝るように男と寝てはならない。それは忌み嫌うべきことである。

③レビ20:13

Lev 20:13 男がもし女と寝るように男と寝たなら、二人は忌み嫌うべきことをしたのである。彼らは必ず殺されなければならない。その血の責任は彼らにある。

VIII. 鳥の巣（22:6～7）

1. 6～7節

Deu 22:6 たまたま道で木の上か地面に鳥の巣を見つけ、それにひなか卵があり、母鳥がひなか卵を抱いている場合、その母鳥を子と一緒に捕ってはならない。

Deu 22:7 必ず母鳥を去らせて、子を捕らなければならない。それは、あなたが幸せになり、あなたの日々が長く続くようになるためである。

- (1) 巣の中にひなか卵がある。
 - ①それを取る場合、まず母鳥を去らせる。
 - ②神は、鳥が減びないように、鳥のことさえも気にかけておられる。
 - ③この規定は、イスラエルの民の祝福のためでもある。
 - ④母鳥がさらに卵を産めば、食物が途絶えることはなくなる。

IX. 屋上の手すり（22:8）

1. 8節

Deu 22:8 新しい家を建てる時は屋上に手すりを付けなさい。だれかがそこから落ちて、あなたの家が血の責任を負うことのないようにするためである。

- (1) 中近東では、屋上を多目的スペースとして利用する習慣がある。
 - ①屋上に手すりがないと、そこから落下する危険性がある。
 - ②手すりを付けるのは、隣人愛の実践である。
 - ③また、命の尊厳を認める行為である。
 - ④家の設計に気配りする人は、血の責任を負うことがなくなる。

X. 2種類の物の区別（22：9～11）

1. 9～11節

Deu 22:9 ぶどう畑に二種類の種を蒔いてはならない。あなたが蒔いた種と、ぶどう畑の収穫全体とが、聖なるものとして取り分けられてしまうことのないように。

Deu 22:10 牛とろばとを組にして耕してはならない。

Deu 22:11 羊毛と亜麻糸を混ぜて織った衣服を着てはならない。

- (1) これらの規定は、【主】への全き献身を教えるためのものと思われる。
 - ①【主】は、二心の人を嫌われる。

- (2) 異なる物の混合について、3つの例が上げられる。
 - ①ぶどう畑に2種類の種を蒔いてはならない。
 - *その畑の収穫物はすべて「忌むべき物」（口語訳）となる。
 - ②牛とろばを組にして耕してはならない。
 - *牛は清い家畜、ろばは汚れた家畜である。
 - ③羊毛と亜麻布を混ぜて織った衣服を着てはならない。
 - *衣服の寿命を縮める。

XI. 衣の房（22：12）

1. 12節

Deu 22:12 身にまとう衣の四隅に房を作らなければならない。

- (1) イスラエル人の長服は、前後の部分に二分されていた。
 - ①この長服には4隅があった。

- (2) 4隅に房を付ける目的は、民数 15：39～40 に記されている。

Num 15:39 その房はあなたがたのためであって、あなたがたがそれを見て、【主】のすべての命令を思い起こしてそれを行うためであり、淫らなことをする自分の心と目の欲にしたがって、さまよい歩くことのないようにするためである。

Num 15:40 こうしてあなたがたが、わたしのすべての命令を思い起こして、これを行い、あなたがたの神に対して聖なる者となるためである。

- ①その房は、【主】の命令を思い起こさせるための仕掛けである。

②【主】の命令を行うなら、イスラエルの民は「神に対して聖なる者」となる。

結論：6つの規定の新約的適用

6. 隣人の家畜（22：1～4）

(1) この規定は、イスラエル人を妬みや食欲から解放した。

①ヤコ 2：15～16

Jas 2:15 兄弟か姉妹に着る物がなく、毎日の食べ物にも事欠いているようなときに、

Jas 2:16 あなたがたのうちのだれかが、その人たちに、「安心して行きなさい。温まりなさい。満腹になるまで食べなさい」と言っても、からだに必要な物を与えなければ、何の役に立つでしょう。

②1ヨハ 3：17

1Jn 3:17 この世の財を持ちながら、自分の兄弟が困っているのを見ても、その人に対してあわれみの心を閉ざすような者に、どうして神の愛がとどまっているでしょうか。

7. 服装倒錯（22：5）

(1) モーセの律法は無効になったが、同じ教えがキリストの律法にも出て来る。

①神を認めない者は、当然の報いを受けている。

②ロマ 1：26～27

Rom 1:26 こういうわけで、神は彼らを恥ずべき情欲に引き渡されました。すなわち、彼らのうちの女たちは自然な関係を自然に反するものに替え、

Rom 1:27 同じように男たちも、女との自然な関係を捨てて、男同士で情欲に燃えました。男が男と恥ずべきことを行い、その誤りに対する当然の報いをその身に受けています。

③カトリック教会（ローマ教皇フランシスコ）

「社会の認識が変化しているのだから、教会もそれに合わせる必要がある」

④神は、罪は憎まれるが、罪人は愛しておられる。

8. 鳥の巣（22：6～7）

(1) 神は、鳥の命を気にかけておられる。

①マタ 10：29～31

Mat 10:29 二羽の雀は一アサリオンで売られているではありませんか。そんな雀の一羽でさえ、あなたがたの父の許しなしに地に落ちることはありません。

Mat 10:30 あなたがたの髪の毛さえも、すべて数えられています。

Mat 10:31 ですから恐れてはいけません。あなたがたは多くの雀よりも価値があります。

9. 屋上の手すり（22：8）

(1) 父親には、家を安全な場所にする義務がある。

①家は、家族団らんの場となっているか。

②子どもたちを守ることの出来る安全な場となっているか。

③エペ6:4

Eph 6:4 父たちよ。自分の子どもたちを怒らせてはいけません。むしろ、主の教育と訓戒によって育てなさい。

④聖書的世界観や価値観を破壊する情報を遮断しているか。

10. 異なる物の混合（22：9～11）

(1) 価値観が異なる者と真実な関係を構築することは、不可能である。

①2コリ6:14～15

2Co 6:14 不信者と、つり合わないくびきをともしてはいけません。正義と不法に何の関わりがあるでしょう。光と闇に何の交わりがあるでしょう。

2Co 6:15 キリストとベリアルに何の調和があるでしょう。信者と不信者が何を共有しているでしょう。

(2) クリスマンはこの世に住むが、この世のものではない。

①この世と交流することで伝道できると考えるのは、大いなる誤解である。

11. 衣の房（22：12）

(1) この規定に関する神の意図は、破壊された。

①マタ23:5

Mat 23:5 彼らがしている行いはすべて人に見せるためです。彼らは聖句を入れる小箱を大きくしたり、衣の房を長くしたりするのです。

(2) イエスは、モーセの律法を100%実行された。

①マタ9:20～21

Mat 9:20 すると見よ。十二年の間長血をわずらっている女の人が、イエスのうしろから近づいて、その衣の房に触れた。

Mat 9:21 「この方の衣に触れさえすれば、私は救われる」と心のうちで考えたからである。

②主イエスは彼女の迷信的信仰を祝福された。

(3) 衣の房は、神との親密な関係を思い出すためのものである。

①信者には、聖霊の証印が押されている。

②エペ4:30

Eph 4:30 神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、贖いの日のために、聖霊によって証印を押されているのです。